長町病院理念 ◆ 患者のみなさまとともに“平等・安全・信頼”の医療をめざします！

民医連 公益財団法人 宮城厚生協会

長町病院だより

2020・1
No.86

発行責任者 ◆ 水尻 強志
〒982-0011
宮城県仙台市太白区長町３丁目７番26号
TEL 022-746-5161㈹ FAX 022-746-5114
http://www.m-kousei.com/nagamati/

新年あいさつ

長町病院 院長　水尻　強志

あけましておめでとうございます。

昨年行われたラグビーのワールドカップは、日本代表の活躍もあり大いに盛り上がりました。ラクビーの言葉で、One for all, All for one（ひとりは皆のために、皆は一つの目標のために）というものがあります。当院も地域の医療機関・介護事業所と連携し、One Team として、医療・介護の充実に向けて尽力していきます。

ただし、残念ながら今年度診療報酬改定は、マイナス改定となることがほぼ決まっております。医療をとりまく状況は厳しく、決して楽観視はできません。当院としても、制度改革に対応するだけではなく、社会保障充実に向けた運動をいっそう強化していかなければと思っております。

今年１年が良い年になることを心より願っております。今後ともなにとぞよろしくお願いいたします。

2019 11/21 木

職員全体学習会報告

保健師　小笠原　里恵子

11月の職員全体学習会は、労働安全衛生委員会が担当でした。

テーマは「パワーハラスメント オンライン講座」厚生労働省の「パワハラ対策についての総合情報サイト あかるい職場応援団」より動画やスライドを見て、改めてパワハラの知識を学びました。

各職場から58名の参加があり、「自分の年齢、経験年数が上がるにつれ、気をつける必要性が大きくなると思った」「指導する側のアンガーマネジメントも重要と感じた」などと感想が寄せられました。

ちょうど当日は、厚生労働省からパワハラ防止策を義務付ける指針案が出たという報道がされました。大企業は今年6月から、中小企業では2022年4月施行の指針です。

社会でもパワハラに対して関心が高くなっています。当協会でも事業所内の相談窓口の設置、その後の対応の流れを整備しています。

パワーハラスメントは、職場内のコミュニケーション不足も一因とされています。今後も正しい知識の取得と風通しのよい職場を目指して、職員のサポートをしていきたいです。

12月の全体学習会

12月19日の全体学習会は、医療機能評価に向けたキックオフ集会と倫理の学習会でした。来年2月に迫った4回目の医療機能評価更新に向けて院長からキックオフ宣言がなされ、医療の質向上に向けて職員一同認識を新たにしました。

その後、院長より「体が不自由な人どう援助するべきか？（医療福祉の隙間を考えずに）」というテーマでお話ししていただきました。私たち医療従事者には、医療保険制度と介護保険制度、障がい者福祉制度の知識を持つことが求められます。障がいのある方の社会参加への取り組みも重要であり、様々な法律を理解して活用し多方面と連携を取りながら援助していく必要性があることを学びました。

復興公営住宅訪問調査行動

薬局長　相原　智哉

11月9日(土)にあすと長町の公営住宅への訪問調査行動に参加しました。

訪問させていただいた方のなかには家賃の引き上げにより、家族の方と別々に住まわざるをえない状況となってしまった方や、家賃の引き上げだけではなく10月から消費税も増税となり、今後の生活が不安とのお話もありました。

また、公営住宅にも町内会があり、行事など参加されている方もいらっしゃいましたが、参加ができていない方もいらっしゃいました。参加できていない方にも訪問することができ、お話を聞かせていただきましたが、普段は家族の方以外と話す機会がないためか笑顔でお話しいただけたことが印象に残っています。

今回の訪問では時間の関係上ポスティングのみになってしまったお宅も多くなってしまいましたが、直接訪問することにより、アンケート内容以外の詳細な状況を調査することができることや、お話を聞くだけでも居住されている方の不安を和らげることもできるため訪問すること自体にも意味のあることだと感じました。さらに多くのお宅に訪問できるよう今後も継続して行なっていきたいです。

回復期リハビリテーション病棟でのクリスマス会

南４階病棟　師長　我妻　良子

12月11日に毎年恒例のクリスマス会を行いました。

初めての試みで、松島オルゴール館の方に出向いていただき、病棟のデイルームで素敵なオルゴールの音色と、歌手の方の生歌でクリスマスSONGを聞かせていただきました。

南４階病棟での演奏が終わると、南３階病棟でも同じく素敵な演奏を披露してくださいました。入院されている患者さんたちも、オルゴールの音色と素敵な歌でクリスマス気分を存分に味わえたと思います。今後も患者さんたちに喜んでいただけるような企画をしていきたいと思います。

宮城民医連

第5回沖縄・辺野古支援行動に参加して

医療情報課　園田　道代

MIN-IREN（民医連）雑誌「いつでも元気」9月号、皆さんはご覧になりましたか？

長町病院の千葉茂樹医師が、紫色の「不屈」と書いたTシャツを着て、凛々しく表紙を飾っている号です。沖縄に行く私に、茂樹先生は「これを沖縄に奉納してきて下さい」と託しました。その時、正直、その意味は良くはわかりませんでしたが（笑）忙しい中でも、平和を守る活動を大事にしている茂樹先生からの頼みですし、断る理由もないので雑誌10冊と、手元にあった南三陸千葉海苔店（茂樹先生のご実家筋）の海苔を10袋持って、沖縄に向かいました。

私がこの行動に参加しようと思ったのは、3年前、沖縄で、女性が米軍属の男性に殺されて「米軍基地をなくしてほしい！」という声の高まりと共に、「本土の人達ももっと関心を持って!! 力を貸して下さい!! 」という悲痛な訴えが、私の心に突き刺さり、私に何が出来るのか、しっかりと沖縄の事を学びたいと思っていたからです。今回、参加できた事で、たくさんの事を学ぶ事が出来ました。この紙面では、記載しきれないので、沖縄に興味のある方は、ぜひ、声を掛けて下さい。ここでは「いつでも元気」と海苔のゆくえについてお伝えしたいと思います。1回目は、2日目でした。74年前のアジア・太平洋戦争末期の沖縄戦で、数多くの犠牲者を出した南部戦跡を巡る中、アブチラガマに行った時の事です。担当して下さった専門のガイドさんは知念さんという方でした。知念さんは「私は東北の方の人の良さが好きで、皆さんのガイドは自分から引き受けました。民医連という組織は詳しくわかりませんが、沖縄協同病院（民医連加盟）は好きです」と自己紹介されました。そして、皆、ヘルメットをかぶり、懐中電灯を手に、ガマの闇をゆっくり歩きながら、このガマで生き残った愛知出身の兵士の話を中心に話をして下さいました。私は、とても感動して、お礼と連帯の気持ち、そして私達の共同組織の存在を伝えたくて、雑誌と海苔をお渡しました。2回目は、茂樹先生が着ているTシャツの「不屈」という字の生みの親、瀬長亀次郎の不屈館です。カメジローは、戦後の米軍統治の中、権利が奪われた沖縄の人達の為に、不屈の精神で立ち向かった人です。館長である娘さんに、茂樹先生の事を伝えながら渡しました。「あらっ、いい男ね～」と、不屈Tシャツを力にしてくれている事をとても喜ばれていました。次は、3日目の辺野古テント村の相馬さんという女性の方でした。相馬さんは、千葉民医連で働いていましたが、沖縄の海に魅せられて沖縄民医連へ再就職、そんな矢先、辺野古の海に米軍基地建設計画が・・ジュゴンと希少生物の宝庫である海の埋め立てを止めさせたくて、休職し、専任で海辺のテント村で、活動している方でした。辺野古で起こっているたくさんの事を教えてもらいました。最後は、3日目の辺野古・嘉手納など基地問題のガイドをして下さった沖縄民医連事務局の松田さんです。全国の民医連職員の平和教育の為にと、通常の仕事の他に、忙しい中、勉強し、ガイドをされていました。沖縄の基地問題について理解が深まりました。茂樹先生から「いつでも元気」の奉納を依頼されたお蔭で、平和の為に「伝える」活動を一生懸命に取り組んでいる素敵な方々と、心通わす事ができました。伝えていただいた時の感動を胸に、私も、今回学んだ事を、伝える努力を続けていきたいと思います。